



上向台小だより

1月号
西東京市立上向台小学校
令和5年1月10日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

「新しい景色」を見るために

校長 町田 元彦

明けましておめでとうございます。

寒さは厳しいですが、穏やかな晴天に恵まれ、新しい年が始まりました。保護者の皆様も、新たな気持ちで新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年はコロナウイルス感染症の予防をはじめ、本校の取組にご理解・ご協力をいただき、様々な教育活動を行うことができたことに、感謝申し上げます。これからも、子どもたちが元気に登校し、学校生活を豊かに過ごし、笑顔で下校していく、この当たり前の日常を大切にしながら、緊張感をもって、教育活動を進めてまいります。

さて、昨年12月は、サッカーワールドカップカタール大会に日本中が大いに沸きました。日本の活躍に興奮し、寝不足になっていたのは私だけではないでしょう。日本は、残念ながらベスト8という「新しい景色」を見ることはできなかったものの、優勝経験のあるドイツ、スペインに勝利し、前評判を覆す結果を残しました。

このワールドカップにおいて、私が、特に印象に残ったものが2つあります。

1つ目は、現地に行った日本人サポーターによる清掃活動です。

各国メディアに取り上げられた日本人サポーターのごみ拾いですが、現地取材の方が、驚きと感動をもって伝えた日本人サポーターの言葉があります。それは「日本人はなぜごみ拾いをするのですか？」に対する答えです。

サポーターからでた答えは『ATARI MAE (当たり前)』だったのです。「使う前よりきれいにする」「いつも感謝の気持ちをもつこと」それは、日本人にとって『当たり前』なんだと、取材を受けたサポーターたちは一様に話したそうです。この『当たり前』の意味を知った記者は、史上最高の言葉だと、感動を伝えたそうです。

2つ目は、試合後にインタビューに応じる森保監督や選手が繰り返し使っていた言葉です。

それは、「ブラボー」でも「俺のコース」でもありません。『準備』という言葉です。初のベスト8をかけたクロアチア戦に向けたインタビューで、森保監督は「落ち着いて最善の準備をしたい。勝つ確率を数%でも上げられるよう準備をする。」と『準備』という言葉を使い続けました。選手も同様に、「次に向けてしっかりと準備をしていきます。」とインタビューの最後を『準備』という言葉で締めくくっていました。

『準備』とは、必要な物や事を前もって整える、備えるということです。明確な目標があり、その思いが強ければ強いほど『準備』はしっかりとしたものになっていくのだと思います。

3学期は、学年のまとめとともに、次の学年への「準備」をする時でもあります。次の学年という「新しい景色」を見るために、子どもたちが「当たり前」のことを丁寧にやり、落ち着いて最善の「準備」を重ねていけるよう、教職員一同、励まし、支援を続けていきたいと思っています。